

モデル事業名	ぎおんぼうの里の新たなコミュニティ維持・創生事業
活動団体名	寺領地区地域づくり協議会
ホームページ	
所属／ 担当者名	ご担当者氏名 河本 穂津雄 (寺領地区地域づくり協議会事務局長)
連絡先	電話番号 0826-28-1161 ousumi@enjoy.ne.jp
活動地域	

● 活動地域の概要

- 寺領地区連合自治会は太田川支流の寺領川沿いの4自治会で組織している。
- 15年前頃から人口の減少が急激に進み、高齢化率も高くなっている。

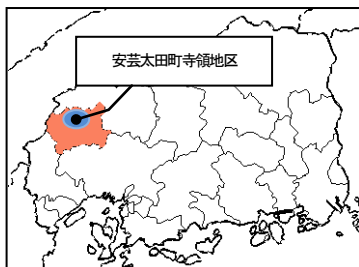
平成21年3月末

平成6年3月末

自治会	世帯数	人口	高齢化率
与一野	18	40	47.5%
才中得	21	52	53.8%
寺領	31	86	53.5%
長原	23	56	50.0%
合計	93	234	51.7%

自治会	世帯数	人口	高齢化率
与一野	24	57	40.4%
才中得	26	72	45.8%
寺領	35	100	44.0%
長原	31	94	30.9%
合計	116	323	39.9%

- 各自治会での自治運営は辛うじて保たれているが、人口の減少と高齢化が進むなかで、持続可能な自治運営の検討が必要な状況である。
- 平成20年3月、この4集落を校区としていた寺領小学校が廃校となっている。跡地利活用案のひとつとして都市部の企業や住民団体の活動拠点への転換が挙げられている。
- 特産品の祇園坊柿の生産地であり生産組合が組織されているほか、地区営農組合も組織されているが、高齢化が進むなかで今後の取組みが危惧されている。



【位置図】



【廃校となった寺領小学校】



【祇園坊柿団地】

● 活動地域の課題

この15年間で人口は27.5%減少、高齢化率は11.8%増で、少子高齢化が進み平成20年3月には小学校が廃校となった。4自治会を小学校区としていたことから、小学校が4自治会を結ぶ機能を発揮しており、小学校行事等は4自治会が連携して支援していた。廃校後1年が経過し、連合自治会として取組む事業等も少なくなり、さらに各自治会の自治機能も組織の高齢化とともに低下しており、連合自治会の機能再生が地域の課題となっている。

● 活動の内容

・平成21年度

寺領小学校廃校後、小学校区の4自治会の連携による持続可能な地域コミュニティの在り方について、次のテーマを中心として、調査及び試行活動を行う。

- 活動① 住民参加型のワークショップを通じて、廃校となっている小学校跡地の利活用の検討や集落点検を行い集落維持に向けた取り組みを試行する
- 活動② 都市住民による耕作放棄地を利用した農作物の生産活動や農業体験を通じた地域住民との交流を試行する。
- 活動③ 以上①、②の成果を踏まえ、廃校の利活用や都市住民との交流等による新たな地域コミュニティ活動の方向性について検討する。

● 活動の成果

・平成21年度

活動①【ぎおんぼうの里座談会（ワークショップ）】

ワークショップにおいて、まず地域内の資源（人、施設、自然）を再評価し、これらの資源を活かすための小学校跡地の活用策を見出すこととし、活かすべき地域資源の洗い出しを行った。そして、この資源を活用する第一段階として、地域内の史跡や施設、集落名を記した案内看板を作成設置した。また、寺領の「むら風景」を活かす取組みとして、沿道への芝桜の植栽を行った。また、ワークショップの内容や活動を地域住民に周知するため「寺領だより」を発行し、地域内全世帯に配布した。

活動②【地域コミュニティ活動における都市住民との交流活動】

寺領小学校廃校後4自治会の住民が一堂に会する機会が極端に減っていた現状があり、この状況を打破しあわせて他出者との交流の場として「夏まつり」を開催した。数名の他出者に事前に依頼し、準備段階から参画してもらうことができた。

活動②【耕作放棄地を利用した生産活動における都市住民との交流活動】

就農者の高齢化による耕作放棄地が散見され、これらの活用策が課題となっている中で、耕作放棄地を活用し、サツマイモ交流会を試行した。都市住民との接点を模索した結果、広島市内の青少年団体を招致し、収穫作業を行った。耕作放棄地の活用方法として都市住民に農業体験機会を提供する可能性について検証することができた。



サツマイモ交流会

活動②【農業体験を通じた都市住民との交流活動】

寺領地域の特産品である「祇園坊柿」を活用した都市住民との交流事業を試行した。柿もぎ体験や皮むき体験、干し柿づくり、野菜市、地域住民との交流会を実施した。柿の収穫と簡単な加工作業の体験であったが、農業に対する興味の喚起につながった。



祇園坊柿交流会

● 今後の課題及び展望

・課題

今回の活動で、当地域からの出身者との連携強化が必要であることが認識された。今回の活動について、各家庭から都市部に住む子供、兄弟等に参加の呼びかけをしたところ多くの反響があり、他出者のふるさとへの関心が高いことがわかった。他出者にはリタイヤ世代も多く、きめ細かい情報発信やふるさと会等の立ち上げ等、集落維持の担い手につながるような取組みを早急に着手する必要がある。

・展望

今回の各活動で、4自治会が連携し新たな地域活動の枠組みをつくることにより、地域からの他出者や都市住民との交流活動や景観維持活動を進めることができることを検証することができた。しかし、これまで集落で行われてきた日常生活での支え合いの部分（葬儀運営、独居高齢者の見守り、交通支援等）については、試行、検証することができなかったため今後もワークショップ等を重ね議論していく必要がある。